令和８年度第１回「防府市農林業政策懇話会」
議事録等

■開催日時・場所

令和８年８月１０日（月）午後２時００分から午後３時４０分まで

防府市文化センター（防府市役所本館８階）

■次第

１　開会

２　説明事項

・令和８年度農林業関係事業における進捗状況について

３　その他

■配付資料

	資料名
1	防災都市ほうふ
2	令和８年度農林業関係事業　進捗状況

■委員等出席者名簿

敬称略・順不同

種別	氏名	所属／品目	出欠
会長	池田　豊	防府市長	出
農林業関係団体	青木　直孝	山口県農業協同組合防府とくぢ統括本部　本部長	出
	渡邊　浩信	山口県中央森林組合　組合長	出
	藤井　伸昌	防府市農業委員会　会長	出
農業関係者	岡本　拓実	水稲・麦	出
	池田　英雄	畜産	出
	原田　慎司	露地野菜	出
農林業の知と技の拠点	柳井　寧	山口県農林総合技術センター　企画戦略部　部長	出
やまぐち農林振興公社	沖　敏雄	担い手・新事業支援部　部長	出
商工業団体	松田　和彦	防府商工会議所　専務理事	出
流通関係団体	桑野　裕和	株式会社丸久　青果部長	出
観光関係団体	中谷　泰	（一社）防府観光コンベンション協会　会長	出
その他関係団体	阿部　幹恵	防府市生活改善実行グループ連絡協議会　会長	出
公募	熊安　悦子		出
	山本　友花		出

■会議録

１　主要事業等に関する情報提供

・農林業関係事業について

防災都市ほうふ及び令和８年度農林業関係事業における進捗状況について、会長、事務局から資料説明。

２　各委員による意見

会長	委員の皆さんから意見をお願いしたい。
Ａ委員	先日、農道牟礼小野線が開通し、小野地区から国道２号線へのアクセスが良くなり、流通が活発になるのではないかと受け止めている。また林業に関しても市場にアクセスしやすくなるので活用できると考えている。通勤にも便利と思う。
会長	農道牟礼小野線は、農業振興だけではなく、様々な面で効果があるのではないかと思っている。
Ｂ委員	生産されたものを運ぶという輸送面からも、非常に便利が良くなった。 総合計画にあるように、青果市場が潮彩へ移転すると、徳地方面のものが移動しやすくなる。 富海の国道２号拡幅も含め、輸送面の効率化、拠点づくりという形ができたと思っている。地域経済では、整備されたものを、民間がいかにうまく活用していくかが大事だと思っているので、知恵を絞り活用できるように考えていきたい。
会長	よく PR していただいて、この農道が防府市の農林業の振興に繋がるようにしていただきたい。 今年は、大変な猛暑とウンカ（稲の害虫）が多いと報道されており心配している。このことについて何か意見はないか。
Ｃ委員	令和８年度の防府市管内の水稲の状況等について情報提供する。7 月中旬にトビイロウンカの飛来による注意報が発令され、ＪＡでは水稲生産者に対し、情報を周知している。防府市管内の大多数の生産者は、トビイロウンカに効果のある箱処理殺虫剤を使用している。使用していない生産者については、7 月から 8 月の早いタイミングで防除するように周知を行っていたが、箱処理殺虫剤を使用していないほ場については、幼虫の発生が見受けられるので、早い段階で再調査をし、追加防除の要否を確認する予定としている。 資料 9 ページにあるジャンボタニシについては、状況を考慮しながら、モデル地区として選定した佐野地区、奈美地区において、農林水産事務所や市と連携しながら対策を

進めている。ジャンボタニシは、生命力が非常に強く、完全な駆除には時間を要するが、薬剤防除は食害による欠株防止に一定の効果があり、収量確保のためにも引き続き取り組んでいく必要があると考える。

また西浦と大道地区で、発生しているといった情報もあるので、状況を確認しながら、対策を進めていきたい。

米の価格について、令和7年10月より安価な備蓄米、輸入米が店頭に増加したことで、国産の需要が減少している。農林水産省によると、昨年の7月からの1年間の米の需要量は、683万tであり、過去最低である。農林水産省公表の米の相対取引価格は、昨年10月が37,058円であったが、今年度の6月は、31,305円となっている。業者間取引においても、現在は２万円を切る銘柄も多い状況である。ＪＡにおいては、米の販売状況の契約進度は約96%程度と全量契約には至ってない状況。さらに引取進度は56.8%であり、かなり遅れている。取引先においても販売に非常に苦戦されている。

米概算金については、令和7年産の米の販売環境が非常に厳しい状況にある中、令和8年産の主食用米の作付が増加傾向にあり、生産量及び在庫が過剰になることが想定される。山口県の令和8年度の概算金は、現時点では非公開であるが、全国の情勢、他県の動向を踏まえ、今後、米穀共同計算運営委員会で協議し、8月末を目途に決定されていく予定である。

資料3ページにある土地利用型農業推進プロジェクトについては、今後、農業公社、や市と連携しながら進めていきたい。なお、小中学校の給食に提供する米は、地産地消を図るため、関係組織と連携しながら、農業公社で生産したお米を安定的に給食へ供給できるように支援していく。

会長

米が余っているという様々な報道がされている。また、昨年上がった概算金が段々下がっている。米の需要確保もあり、お米券の配付や社会福祉施設等への米の支給等に取り組んだが、全国的に土地利用型農業の推進には向かい風であると危惧している。

Ｄ委員

現在、小野地区、右田地区、玉祖地区が連携して、サツマイモの産地化を目指して、試験栽培しているが、猛暑に加えて、7月の上旬以降全く雨が降らず、苦慮している。しかし、元水田で作付けをしているため、水を確保しやすく、水田でサツマイモの作付けを行うメリットの一つである思う。

資料2の5ページの６次産業化支援事業について、当法人では、今年度、やまぐち６次産業化・農商工連携推進事業を活用し、サツマイモの加工をさせていただく。リスク分散や、通年雇用の創出、排気ガスの削減といった、持続可能な農業を目指した挑戦となる。今後は、特産品の１つとなるような商品の開発をしていきたい。

山口県では、農業者の高齢化が他県より進んでおり、小野地区、右田地区、玉祖地区で、ほ場整備が進むこの機に、地域の枠を超えた連携が不可欠ではないかと考えている。担い手が減少し、1人当たりの管理面積が増加していく中、この3地区の連合体を作り、互いに助け合いながら、佐波川流域の農地を守ることを考えている。すでに、連

	携し、先進地の視察やサツマイモの試験栽培に着手しているので、連合体事業として、関連機関の支援や指導をお願いしたい。 　また、右田地区の水田では、ドローンを活用した直接播種の試験栽培に取り組んでいる。ドローン直播技術が確立すれば、田植えの工程を大幅に省力化することができる。地域農業を次世代につなぐためには、こうした省力化や新しい技術への挑戦が欠かせないと思っている。このような新たなチャレンジに向けた試験的な取組に対して、行政も一緒に取り組んでいただきたい。また財政的に最初の一歩を手助けしていただけるような、仕組みを作っていただけると嬉しく思う。
会長	これからの地方農業では、連合体のような形で大規模農家をつくり、多くの農地を耕作してくことを考えていく必要がある。 　行政としても、現場の皆さんの意見を聞きながら、連合体の収益増加等に向けた取組を検討していきたい。
B委員	６次産業化、商品開発については、CONNECT22（中小企業、個人事業主のサポート機関）が相談に対応できる。しっかり使っていただきたい。
会長	使える制度はしっかり使っていただきたい。
A委員	情報提供になるが、本日付けで、県から、「高温・少雨に係る農作物等の被害防止に向けた技術対策」が発出されている。野菜等の栽培対策もホームページに掲載しているので確認していただきたい。また、熱中症にも注意していただきたい。 　余談になるが、令和７年４月に「食料・農業・農村基本計画」が閣議決定され、「水田活用の直接支払交付金」の制度が見直される。今後は、作物ごとの生産性の向上等の支援へと制度の中身が変わっていく。制度の詳細は明らかになっていないが、農業の政策が大きく変わっていくということを認知しておいていただきたい。
E委員	資料 10 ページにある畜産暑熱対策支援事業を活用し、扇風機や牛の体を冷やす飼料を導入しているが、この暑さで牛の体調に異常をきたしている。牛乳の成分値等が変わると取引単価にも影響するため、対策を講じていく必要がある。暑熱対策事業は継続してもらえるとありがたい。 　また、牛乳の価格が上がらない中、稲のホールクロップサイレージのラップ等ビニール系の資材の価格が高騰しているので、このあたりを検討してもらいたい。 　なお、牛乳の価格は上がらないが、子牛の単価は上昇している。円安により、外国産の価格が上がり、国産牛の需要が増えたのではないかと思う。
会長	上がっている子牛の値段はF1だろうか。（農家に良い意味で）影響は大きいと思う。

Ｆ委員

去年は米価が高く一時的に収益が上がったが、今は、資材の価格高騰で経営が厳しいなか、米価が安くなるため、どのように経営していくか悩む状況。作業効率を上げたり、いろいろな穀物の栽培を検討したりする必要があると思っている。先を見据えて営農が継続できるよう、米の価格は安定して推移することを願うばかりである。

Ｇ委員

今回は皆さんに、花きの状況について理解していただきたい。

現在、日本の花の生産量は 30 億本となっており、30 年前の 60 億本と比べ、需要が半分になっている状況である。結婚式や葬儀での利用が縮小傾向であり、物価高騰により、嗜好品である花の購入が減少しているのではないかと思っている。このままでは花を愛でる習慣、文化が薄れていくのではないかと危惧しており、こどもの頃から花に触れ合う習慣をつくっていく「花育」に取り組んでいく必要があると思っている。

防府の花き園芸組合としても、小学生に対して、フラワーアレンジメント等、花と触れ合う機会を設ける取組を考えているが、市としてもそういった取組に支援いただければと思う。

会長

こどもを対象としたフラワーアレンジメント大会については、農林業の知と技の拠点で開催されている。その大会が甲子園のようなものになれば、皆の目標になるのではないかと思っている。

また、農協等関係機関の方と協力しながら、花に親しむような運動をしていく等、地道に活動していくことが大切と思っている。

Ｈ委員

私は園芸療法士をしているが、花は気持ちを豊かにしてくれる。私の畑では、ひきこもりの方もボランティアで活動されているが、皆さん畑で土を触ると元気になる。園芸療法士として、皆さんに園芸療法を勧めていきたい。

Ｉ委員

令和 8 年度の農林水産業の新規就業者ガイダンスは、これまでと場所を変えて KDDI ホールで行った。出展は 58 ブース。参加者は 80 人を超え、コロナ禍前の水準に戻ってきた。今年は、各ブース、特に法人から、米価、概算金がまだ不明なため、相談があっても回答が難しいといった声があった。

最近では新規就農にも多様な形がある。大きな流れとしては、移住して就農するといった形が確立しつつある。関東地域では、高齢者夫婦の移住・就農という相談も多くある。

また、やまぐち農林振興公社では、各市町が実施する「就農ゆめツアー」に補助金を交付している。新規就農者の確保・育成に、ガイダンスや就農夢ツアーを活用していただきたい。

会長

防府市では６３歳まで経営開始資金の対象としているので、高齢者の方もＵターンして、就農していたただきたい。

Ｊ委員

現在、林業では、猛暑で山での作業に大変苦慮している。

防府市では、2050 年の森づくりプロジェクトの中で、森林の伐採、植林、木材の遊具利用、木材を使ったものづくり体験のイベント等、様々な施策を実施されいる。資料１４ページにある当プロジェクトで行われている伐採見学や植林体験は、森の循環の一部であり、大変重要なことだと考えている。大平山の木を活用した遊具の整備が、4 月に完了し、週末には多くの人でにぎわっていると聞いている。また、大平山山頂公園の案内看板や農道牟礼小野線の記念看板など、大平山や県内の木材を活用した看板を設置されており、大変うれしく思っている。

今後も継続して、県内木材を活用した遊具等の設置をしていただき、看板等で広く宣伝していくことを進めていけば、林業に対する認知度も上がり、さらなる発展に繋がるのではないかと思っている。

会長

市としても毎年、木製の遊具を整備していきたい。2050 年の森プロジェクトは始まって数年であり、今は除伐の段階。植林、除伐、間伐、枝打ちといった森づくりのサイクルが 大平山に行けば見えるようしたい。

農の２つのプロジェクトの１つである青果市場の移転、１次産業の拠点について、意見をお願いしたい。

Ｋ委員

防府市で一番観光客が多いのは天満宮だが、2 番目が潮彩市場防府一帯である。今後、青果市場が潮彩市場の方に移転し、1 次産業拠点ができるが、この拠点を、集客拠点にもしていただきたい。

見るもの、食べるもの、買うもの、体験すること、SNS 発信。これらの要素をこの拠点整備でしっかりそろえていただきたい。第２次産業や３次産業も合わさり、観光客が来て、素材を見て、加工されたものを自宅に直送できるような観光施設になると良い。

会長

今、山口県が緑地の整備をされている。今後は、緑地、水産、青果、潮彩市場、メバル公園が一体となって機能し、観光地として地域経済の活性化にもつながるのではないかと思っている。

Ｌ委員

水産市場に青果市場を移転することで、防府市の地元の農産物、水産等が活発に取引されることを願っている。弊社としても、しっかりと利用させていただいて市場活性化等に協力させていただきたい。現在、月一度開催されている朝市は新市場でも開催されるということなので、集客面で協力させていただきたい。

会長

人が集まる市場にするため、積極的に新しいことに取り組んでいく必要がある。地産地消にしっかりと取り組んでいきたい。

M委員	現在、青果市場で、親子料理教室や郷土料理教室、地域のものを使ったレシピづくりをしている。新しい市場には、来られた方が、そこで販売されている農産物等を使い、料理をすることでＰＲできるような場所ができればいいと思っている。 花育の話題になるが、私が所属している別の団体では、放課後子供教室で、年に１回、県の花の市場の方や防府の生花店に、フラワーアレンジメントを教えてもらっている。作ったアレンジメントを家族に贈るため、こどもたちはとても喜んでいる。プチソレイユ（山口県オリジナルユリ）を使いたいが、時期もあるので、その時期にできれば良いと思っている。
会長	プチソレイユは山口県のオリジナルの花だが、知っている人がどれくらいいるのかと思う。売り込むには、市役所やいろいろな施設で飾ることも一つの方法と思う。 また、木も花も子どもの頃から触れ合うことが大切であると思っている。
N委員	現在は１人で営農（稲作）を行っている。一人通年雇用したいが、難しい状況。そこで、防府市独自の生産性向上設備事業補助金を活用し、草刈り機やフォークリフト、農薬の散布機といった機械を導入することで、300 時間分の人件費を削減することができた。今後は省力化ができる機械を導入しつつ、人も雇用できるよう頑張っていく。
会長	私は、土地利用型農業、米を作ることが農業の基本であり、米作りを中心に野菜や果物等いろいろな作物を作っていくことが農業を支えることにつながると考えている。 また、特に若い新規就農者の方にとって魅力ある「稼げる農業」にしていきたいと思っている。 現在、米価の問題等、様々な変化のときに直面しているが、皆さんと力を合わせて、防府市が山口県の農業をけん引していきたいと思う。今後も皆様の指導・協力をお願する。

閉会